

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】平成21年5月21日(2009.5.21)

【公開番号】特開2008-196775(P2008-196775A)

【公開日】平成20年8月28日(2008.8.28)

【年通号数】公開・登録公報2008-034

【出願番号】特願2007-32350(P2007-32350)

【国際特許分類】

F 2 4 F 11/02 (2006.01)

【F I】

F 2 4 F 11/02 1 0 2 F

F 2 4 F 11/02 1 0 2 T

【手続補正書】

【提出日】平成21年3月27日(2009.3.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

冷媒を圧縮する圧縮機と、室外空気及び冷媒の間で熱交換を行う室外空気熱交換器と、前記圧縮機及び前記室外空気熱交換器に並列接続され、室内空気及び冷媒の間で熱交換を行う室内空気熱交換器を有する複数の室内ユニットと、前記室外空気熱交換器及び複数の前記室内空気熱交換器の間に設けられ、該室外空気熱交換器及び該室内空気熱交換器各々の間の冷媒の流量を制御する複数の冷媒制御弁と、を備えてなる空気調和機であって、

少なくとも一つの前記室内ユニットで暖房運転が実行されているときに、他の停止中の前記室内ユニットに貯溜している液体冷媒の量を検出する冷媒貯溜量検出手段と、

前記冷媒貯溜量検出手段による検出結果が予め設定された上限値以上となった場合に、停止中の前記室内ユニットに対応する前記冷媒制御弁の開度を徐々に増加させる弁開度制御手段と、

を備えてなることを特徴とする空気調和機。

【請求項 2】

前記室内ユニット各々の前記室内空気熱交換器の内部の冷媒温度を検出する複数の中間温度検出手段と、前記室内空気熱交換器の前記冷媒制御弁側の出口の冷媒温度を検出する複数の出口温度検出手段とを更に備えてなり、

前記冷媒貯溜量検出手段が、暖房運転中の前記室内ユニットに対応する前記出口温度検出手段による検出温度と、停止中の前記室内ユニットに対応する前記中間温度検出手段による検出温度との温度差に基づいて、停止中の前記室内ユニットに貯溜している液体冷媒の量を検出するものである請求項 1 に記載の空気調和機。

【請求項 3】

前記弁開度制御手段が、前記冷媒貯溜量検出手段による検出結果が予め設定された下限値以下となった場合に、停止中の前記室内ユニットに対応する前記冷媒制御弁を閉鎖させるものである請求項 1 または 2 に記載の空気調和機。